は、 県のイチゴ施設栽培で 燃焼式でのCO°施

## CO<sub>2</sub>を効率的に供給

「換気連動施用」と「局所施用」で

## イチゴ施設栽培、所得向上

増加が課題だ。

CO<sup>2</sup>流亡による燃料費

閉時のみ施用し、 トで施用する「局所施 いて800ppm程度の 施用」と株元に専用ダク は施用しない「換気連動 高濃度CO2を、 焼式のCO゚発生機を用 ゆめのか」で、 そこで、県の主要品種 換気時 施設密 灯油燃

現場で使える!

ダクトによる CO2局所施用

8,605

は、 ど光合成速度が増加する と報告されている。一方 はCO『濃度8〇〇pp れており、先行の研究で 用により単収向上が図ら までは高濃度になるほ 換気時の施設外への 高濃度のCO°施用

側換気が閉まり

密閉される

CO2発生機

討した―図1。 かわらず、無施用に比べ て2割以上収量が増加し O<sup>∞</sup>施用は施用方法にか ついて収量と収益性を検 その結果、高濃度のC 特に「換気連動施

> ても、10~当たり約61万 かかるコストを差し引い

燃料費 203 CO<sup>2</sup>施用にかかる経費 部材費 155 CO<sup>2</sup>施用にかかる経費 燃料費 673 所得十その他の経費 販売額 部材費 99 8,796 のそ所 経の得 費他+ 8,438 7.833 換気連動局所CO<sub>2</sub>施用 常時全体CO。施用

CO<sub>2</sub>

換気連動局所CO₂施用の模式図

換気連動局所CO<sub>2</sub>施用の収益性 注:10a当たり、単位は千円

CO2発生機が起動 株元へ局所施用 側換気 d

算すると、CO<sup>2</sup>施用に この方法による収支を試

と「局所施用」を組 み合わせたCO<sup>2</sup>施用で 等の収量を維持しつつ、 O。施用と比較すると同 燃料費を70%削減できる は、常時施設全体へのC ことが明らかとなった。

> ることが明らかとなった 円の所得増加が期待でき

その組み合わせに

図 1

部門 ||図2。 センター 農産園芸研究 (長崎県農林技術開発 堀田修平